

わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから……教える人は教えに、勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。（ローマ12：6－8より）

大学卒業は、一生涯の中の、大きな節目です。今年の卒業生たちは、その節目を、日本全体が嘆き悲しむ、社会の危機の中で迎えました。そこで、本来でしたら卒業式が予定されていた時刻毎に、チャペルで卒業生のために祈る会をもちました。

大学ではなく法人の立場で・ではありましたが、一切宣伝もしなかったのに、保証人のかたを含めて延べ5～60人、一緒に祈ってくださったのでしょうか。その中で、私は **Do for Others** という大学の教育理念を、もう一度なぞりました。

Do for Others というのは、私どもが、嘆き悲しむ人たちに対して手を差し伸べようということも、もちろんあります。ただ、それだけではなく、嘆き悲しんでいる人たち自身が幸せになるために、ぜひとも必要なことだと思ったのです。

愛する家族も、家も財産も、職場も仕事も仕事仲間も、また健康まで、全てを失った人があります。将来の生活の、目途も立ちません。そうした人が、これから先、自分だけの豊かさ快適さを追い求めているのは、もう、幸せにはなれないだろうと思うのです。愛する人も無い中で、無理に、自分一人の豊かさ快適さを追いかけてまわしても、虚しいだけです。そうしたかたたちが、これから幸せになる道は、自分のために生きるのではない、隣人を愛して隣人のために生きようとした時だと思う。人を愛し、人のために生きることで、自分が救われるのだ……。

そうしたことをお話ししまして。「この理念のもとで学んだ諸君が、今、悲しみ嘆く世に出て行くんだヨ」と伝えた時。何人かのかたが涙ぐんでくださったのは、スギ花粉のせいだけじゃあなかったと思います。学生さんがたは、自身の置かれている状況をよく自覚して、決意を新たにしておられると感じました。

それで改めて思われますのは、教育という仕事の尊さです。被災したかたたちのために何かをしたいと思っても、一個人が一人ぼっちで出来ることは、小さなことです。全体から見れば、ほとんど役に立ちません。でも私どもは、こうして皆で教育に携わり、**Do for Others** の志を抱いた卒業生を、大勢世に送り出しているのです。一人では出来なくとも、私どもが送り出している大勢が、世で、善き働きを為してくれます。教える者は教えに専心し、それを支える者は実直に支えることが、たいへん尊い、大切な仕事であることを、感謝をもって改めて感じさせられました。ご一緒にここで仕事をさせていただいていることを、誇りに思います。